

企画展 「THE JR Hokkaido」の表紙絵から 藤倉英幸と旅のイメージ

あいさつ

企画展「THE JR Hokkaido」の表紙絵から 藤倉英幸と旅のイメージを開催します。

札幌市在住の藤倉英幸は、1948(昭和23)年日本海に面した港町、岩内町に生まれました。早くからグラフィックデザインに興味を持ち、美術やデザインを独修、26歳のときに独立して本格的な活動を開始しました。以後、書籍の装幀、パッケージデザイン、イラストレーションなどの分野で活躍を続けているアーティストです。1992(平成4)年からJR北海道車内誌「THE JR Hokkaido」の表紙絵を担当、自身のエッセイとともに掲載し多くのファンを魅了してきました。

北の大地の広大な風景、いどり豊かな田畑や山林、季節を装う町並みや漁村...。藤倉英幸の描く世界は、四季折々の北海道の情景を詩情豊かに伝えます。貼り絵の手法を用いたその親しみある表現によって、北海道の豊饒なイメージや旅の魅力を静かに語り続けてきたのです。本展では、これまで掲載された表紙絵のなかから代表作を選び、原画ならではの味わい深い絵画世界と印刷美術の一端をご紹介します。

また、ズウさんの名で知られる渡邊俊博のイラストレーションや小説家・小樽山博のエッセイなど同誌を飾る人気の連載企画や特集記事にもスポットをあて、さらに、北海道デザイン界の先達・栗谷川健一がデザインした旧国鉄の観光ポスターなども紹介し、広報メディアをとおして伝達される「旅」へのメッセージのありようを探ります。本展を通じて、図書や雑誌の編集とデザイン、複製美術など広く印刷や出版に関する文化・芸術に関心を寄せていただければ幸いです。

本展の開催にあたり、ご尽力いただきました藤倉英幸氏をはじめ、出品いただいた写真家やクリエイター、ライターの方さま、ご協力いただきましたご所蔵家並びにJR北海道とグループ各社ほか、関係の方さまに心から感謝を申し上げます。

会 期 2010年1月30日(土)~3月22日(月・休)
会 場 北海道立文学館 特別展示室
主 催 北海道立文学館 財団法人北海道文学館
特別協力 北海道旅客鉄道株式会社 株式会社北海道ジェイ・アール・エージェンシー
後 援 札幌市 札幌市教育委員会
後援(教育普及事業) 社団法人北海道観光振興機構

企画展「藤倉英幸と旅のイメージ」主要出品作品一覧

栗谷川健一と旅のポスター - 印刷美術が語る北海道のイメージ

北海道のデザイン界の先達、栗谷川健一[1911(明治44)年 - 1999(平成11)年]は、戦前から戦後にかけてめざましい活躍を示したデザイナーです。世界観光ポスターコンクールで2度の最優秀賞に輝くなど、次々と各種コンクールで受賞を重ね、日本のグラフィックデザインを先導しました。

栗谷川が最もその力を発揮したのが観光ポスターの分野でした。とりわけ北海道への旅行に誘う旧国鉄のポスターは、主題の清新さ、構図や色彩表現の大胆さにおいて卓抜した才能をみせ、雄弁な視覚イメージを伝えていきます。牧場やスキー場、北国の動物や湖など北海道の風景や風物をテーマとしたそれらのポスターは、この北の大地の自然と風土を印象強く表現し、北海道という土地の持つ固有性を象徴的な図像に託してメッセージ化しています。そして、大量印刷に基づく圧倒的な伝達力によって、ポスターを自撃する多くの人々を刺激し、北海道への旅へと駆り立ててきたのです。

栗谷川の活躍は、藤倉英幸などその後のデザイナーたちに大きな影響を与えるとともに、書籍や雑誌、パッケージデザインなど大量複製される印刷美術に新たな可能性を示唆するものでした。今日もなお多用されるポスターの新世紀へ、タウン誌やミニコミ誌、次いでフリーペーパーの活況へと、時代は移り変わってゆくことになるのです。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵
P001	栗谷川健一	夏ひらく	1939年	流山温泉蔵
P002	栗谷川健一	HOKKAIDO NATIONAL PARKS	1950年	流山温泉蔵
P003	栗谷川健一	牧場の鐘(HOKKAIDO)	1952年	北海道立帯広美術館蔵
P004	栗谷川健一	ムックリを鳴らすアイヌの娘(Hokkaido)	1953年	北海道立帯広美術館蔵
P005	栗谷川健一	伝説の湖(国立公園 阿寒湖)	1956年	北海道立帯広美術館蔵
P006	栗谷川健一	白鳥の季節	1959年	流山温泉蔵
P007	栗谷川健一	風車	1959年	流山温泉蔵
P008	栗谷川健一	緑に歌う(Hokkaido)	1960年	北海道立帯広美術館蔵
P009	栗谷川健一	家路(平原の湯の里 十勝川温泉)	1962年	北海道立帯広美術館蔵
P010	栗谷川健一	北海道百年記念ポスター	1967年	流山温泉蔵
P011	栗谷川健一	麦わら帽子(花の北海道)	1968年	北海道立帯広美術館蔵
P012	栗谷川健一	昇る太陽(国際観光都市 さっぽろ)	1969年	北海道立帯広美術館蔵
P013	栗谷川健一	Hokkaido[日本国有鉄道(北海道)・北海道・北海道観光連盟]	年代不詳	流山温泉蔵
P014	栗谷川健一	温泉旅館 十勝岳 観光荘	年代不詳	流山温泉蔵

藤倉英幸の貼り絵芸術 - 北海道の光と風と刻(とき)を描く

日本の北方に位置する北海道は、寒冷地特有の気候風土、原始から受け継ぐ雄大な自然、人々の暮らしと拓殖の歴史を刻む都市や集落など、他の地域にはない豊かな魅力に満ちあふれています。1948(昭和23)年日本海の港町、岩内町に生まれた藤倉英幸の描く世界は、自らを育んだこうした北海道をテーマにしたさまざまな風景です。

しっとりとして味わい深いその作品は、鉄道車内誌「THE JR Hokkaido」の表紙絵として長年にわたって掲載され、北海道を旅する多くの観光客やビジネス客に親しまれてきました。1992(平成4)年の5月号に掲載された最初の作品から数えて200点を超える作品が表紙を飾り、四季折々の北海道の情景に短い詩文を添えて発表は続けられました。

光を受けて時々刻々と移ろいゆく風景の表情を、貼り絵という制約の多い技法を用いながら、紙による絵画とは思えない深遠で印象的な作品を作り出し表紙原画として提供してきたのです。誰もが手にする旅行雑誌という媒体を舞台に、自身の造形を印刷美術に転換してもなお数多くの讃辞を集めてきたのは、微風がそよぐ北の大地への憧憬や懐旧の情がそこに形象化されているからに相違ありません。

印刷メディアを通して多くの人々の脳裏に刻み込まれていく藤倉英幸の絵画世界。それは、北海道を旅するさまざまな人々が想いを重ねる美の世界なのです。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵	「THE JR Hokkaido」 掲載年月号
F001	藤倉英幸	雪明かりの道	1991年	作家蔵	1993年2月号
F002	藤倉英幸	冬の夜	1991年	作家蔵	1994年2月号
F003	藤倉英幸	家路	1992年	作家蔵	1992年9月号
F004	藤倉英幸	秋風の中	1992年	作家蔵	1992年10月号
F005	藤倉英幸	菜の花踏切 誌面では(菜の花と踏切)と表記	1992年	作家蔵	1993年5月号
F006	藤倉英幸	ハマヒルガオ	1992年	作家蔵	1993年8月号
F007	藤倉英幸	秋近い里	1992年	作家蔵	1993年9月号
F008	藤倉英幸	行く秋(11月)	1992年	作家蔵	1993年11月号
F009	藤倉英幸	夕凧ぎ港	1992年	作家蔵	1994年8月号
F010	藤倉英幸	エゾキスゲの花園	1993年	作家蔵	1993年7月号
F011	藤倉英幸	小さな駅舎	1993年	作家蔵	1993年12月号
F012	藤倉英幸	風の色	1993年	作家蔵	2002年10月号
F013	藤倉英幸	風の踏切	1994年	作家蔵	1995年9月号
F014	藤倉英幸	遅い春	1994年	作家蔵	1996年3月号
F015	藤倉英幸	雪解け	1994年	作家蔵	1999年3月号
F016	藤倉英幸	春の公園	1995年	作家蔵	1995年5月号
F017	藤倉英幸	雪晴れて	1995年	作家蔵	1996年2月号
F018	藤倉英幸	夏の駅	1995年	作家蔵	1996年7月号
F019	藤倉英幸	サロマの岸边	1995年	作家蔵	1996年8月号
F020	藤倉英幸	名残(なごり)の秋	1995年	作家蔵	1998年11月号
F021	藤倉英幸	残照	1995年	作家蔵	1999年11月号
F022	藤倉英幸	青い海峡	1995年	作家蔵	2000年7月号
F023	藤倉英幸	海鳴りの村	1996年	作家蔵	1997年2月号
F024	藤倉英幸	北へ帰る	1996年	作家蔵	1997年3月号
F025	藤倉英幸	少年の夏	1996年	作家蔵	1997年8月号
F026	藤倉英幸	防風林	1996年	作家蔵	1997年11月号
F027	藤倉英幸	みぞれ降る日	1996年	作家蔵	1998年12月号
F028	藤倉英幸	雪の漁村	1996年	作家蔵	2008年2月号
F029	藤倉英幸	灯台のある村	1997年	作家蔵	1998年2月号
F030	藤倉英幸	雪解け間近	1997年	作家蔵	1998年3月号
F031	藤倉英幸	青い時刻(とき)・小樽運河	1997年	作家蔵	1999年12月号
F032	藤倉英幸	北運河から(小樽)	1997年	作家蔵	2002年12月号
F033	藤倉英幸	遠い海	1998年	作家蔵	2000年4月号
F034	藤倉英幸	残雪譜	1999年	作家蔵	1999年4月号
F035	藤倉英幸	雪のあと	1999年	作家蔵	2000年2月号
F036	藤倉英幸	離島の夏	1999年	作家蔵	2000年6月号
F037	藤倉英幸	湿原に朝がくる	2000年	作家蔵	2000年8月号
F038	藤倉英幸	秋いそぐ	2000年	作家蔵	2000年10月号
F039	藤倉英幸	暮れの空	2000年	作家蔵	2000年12月号
F040	藤倉英幸	夕空	2000年	作家蔵	2002年9月号
F041	藤倉英幸	秋も行く	2000年	作家蔵	2002年11月号
F042	藤倉英幸	春風	2000年	作家蔵	2007年5月号
F043	藤倉英幸	春の声	2001年	作家蔵	2001年5月号
F044	藤倉英幸	冬日	2001年	作家蔵	2003年1月号
F045	藤倉英幸	菜の花の頃	2002年	作家蔵	2004年5月号
F046	藤倉英幸	緑の丘	2002年	作家蔵	2005年6月号
F047	藤倉英幸	冬まぢか	2003年	作家蔵	2003年11月号
F048	藤倉英幸	冬・網走湖	2004年	作家蔵	2005年2月号
F049	藤倉英幸	丘の道を行く	2006年	作家蔵	2007年6月号
F050	藤倉英幸	灯台に夏がくる	2006年	作家蔵	2007年7月号
F051	藤倉英幸	でき秋	2006年	作家蔵	2007年9月号
F052	藤倉英幸	秋色峠	2006年	作家蔵	2007年10月号
F053	藤倉英幸	雪が降ってきた	2006年	作家蔵	2007年12月号
F054	藤倉英幸	雪の里に	2006年	作家蔵	2008年1月号
F055	藤倉英幸	秋の夕	2006年	作家蔵	2008年9月号
F056	藤倉英幸	ヨットハーバー	2007年	作家蔵	2008年8月号
F057	藤倉英幸	流水の海	2007年	作家蔵	2009年2月号
F058	藤倉英幸	離島の白い灯台	2008年	作家蔵	2009年6月号
F059	藤倉英幸	収穫を待つ	2008年	作家蔵	2009年9月号
F060	藤倉英幸	小さな漁港に雪が降る	2008年	作家蔵	2010年1月号



藤倉英幸 (夕空)

車窓から眺める北海道 - 「THE JR Hokkaido」が誘う旅の世界

1987(昭和62)年4月旧国鉄の分割民営化によって北海道旅客鉄道株式会社(JR北海道)が発足し、この時「THE JR Hokkaido」も産声をあげました。B5判のこの雑誌は、発刊当初には同社の広報誌として会社の事業や関連業務に関する話題が誌面の多くを占めていました。

「民間会社としてのJR北海道」のイメージが定着していくのに合わせて、この雑誌の役割は広報誌から北海道の旅の総合情報誌へと内容を充実させます。1989(平成元年)年、創刊からの隔月発行がこの年の5月号から月刊となり、ほどなくして、誌面構成の点ではそれまで多かった鉄道関連の内容よりも、北海道の文化、歴史、自然など地域に関するテーマが特集のメインになっていきます。連載企画もその数や質が充実し、ページ数は50ページ近くと創刊時の倍近くにボリュームが増え、現在の発行形態の骨格がこの時に形作られました。

JR北海道が発足5周年を迎えた1992(平成4)年には、この雑誌の顔というべき表紙に藤倉英幸の貼り絵作品が登場、以来今日までこの雑誌を手にとる人々の目を楽しませてくれています。

「THE JR Hokkaido」は、北海道内を走るすべての特急列車の座席に配され、旅の供として多くの人々に読み親しまれてきました。思わず「どこかへ旅をしたい」という気持ちにさせるその魅力の一端を、「北を知る」「北を巡る」「北に生きる」「北の恵み」「北の追憶」の5つのコーナーに分けてご紹介します。

北を知る - 北海道を学ぶ知的トラベル

「THE JR Hokkaido」の特集記事は、歴史、文化、自然、科学、芸術、食など、北海道にまつわるあらゆるものがテーマの対象となっています。そして、そのテーマのそれぞれが、北海道の魅力を引き出し、北海道への新たな認識を促してくれ

ます。こうしたテーマの多様性ととともに、専門的で難しいテーマであっても、車内で気軽に読める分かりやすい文章や印象的な写真が読者をひきつけています。そうした平明さの背景には、テーマに関する丹念な取材や調査があり、また、そのようにして執筆された特集記事はテーマに関する本質的な部分もしっかりと押さえられています。したがって、誰もが楽しみながら北海道に関するさまざまな事柄を知ることができ、知的好奇心が大いに刺激されます。北海道の魅力を自分の目でも確かめたいという気持ちにさせる知的な刺激、それが読者を旅へと導くのです。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵	「THE JR Hokkaido」 掲載年月号
M010	立花富美雄	2010年1月号特集「利尻山」写真	2006年頃	作家蔵	2010年1月号
M011	立花富美雄	2010年1月号特集「利尻山ヤムナイ沢」写真	2006年頃	作家蔵	2010年1月号
M012	中山浩樹	2010年1月号特集「羊蹄山」写真	2000年頃	作家蔵	2010年1月号
M013	中山浩樹	2010年1月号特集「羊蹄山」写真	2000年頃	作家蔵	2010年1月号

北を巡る - 鉄路で訪ねる大地の魅力

「THE JR Hokkaido」には、さまざまなライターが自分の足で北海道各地を旅して、その醍醐味を伝える紀行シリーズが創刊直後から掲載されてきました。それらのシリーズは、広く知られる観光地はもとより、魅力があまり知られていない地域にも旅をして、その土地の食、歴史、風景などの見どころを、旅心をくすぐる語り口で個性豊かに紹介しています。

たとえば、「堀淳一の風に吹かれて一人旅」シリーズでは、地図愛好家の視点で車窓から見える風景や利用した路線の歴史についてガイドしています。また、門脇啓二の「ゆったり自分旅」シリーズからは、食べ、呑み、歩きながら楽しく旅している様子が伝わってきます。そのような記事を読むことで、「自分もそこに行ってみよう」と思えてきます。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵	「THE JR Hokkaido」 掲載年月号
M025	堀淳一	堀淳一の風に吹かれて一人旅「室蘭本線 東室蘭・長万部間」写真	2006年	作家蔵	2006年7月号
M026	堀淳一	堀淳一の風に吹かれて一人旅「宗谷本線 稚内・天塩中川間」写真	2006年	作家蔵	2006年9月号
M027	堀淳一	堀淳一の風に吹かれて一人旅「花咲線(根室本線) 釧路・根室間」写真	2006年	作家蔵	2006年10月号
M028	堀淳一	堀淳一の風に吹かれて一人旅「函館本線 長万部・札幌間(山線)」写真	2006年	作家蔵	2006年11月号
M029	堀淳一	堀淳一の風に吹かれて一人旅「津軽海峡線(海峡線&江差線、木古内・五稜郭間)写真	2006年	作家蔵	2006年12月号
M030	堀淳一	堀淳一の風に吹かれて一人旅「石勝線 南千歳・新夕張・夕張間」写真	2007年	作家蔵	2007年10月号
M041	門脇啓二	ゆったり自分旅「田園地帯で歴史散歩」写真6点	2008年	作家蔵	2008年8月号
M042	門脇啓二	ゆったり自分旅「宇宙のミールに工場のビール」写真6点	2008年	作家蔵	2008年10月号
M043	門脇啓二	ゆったり自分旅「ゲレンデ横目に温泉ざんまい」写真6点	2008年	作家蔵	2009年2月号
M044	門脇啓二	ゆったり自分旅「テーマパークのような街で」写真6点	2009年	作家蔵	2010年1月号

北に生きる - 人と生きものの営みにふれる

「THE JR Hokkaido」の読者は、さまざまな人々の生き様や、動植物など北海道に息づく生命の姿に出会うことができます。

小檜山博のエッセイ「人生讃歌」では、親子の絆や友情、いつくしみの心など、人が生きていくうえで忘れてはならないテーマが綴られ、人生の機微を感じとることができます。また、自らの技に誇りを持つ職人や、安全輸送の務めを果たす鉄道員をはじめ、さまざまな人々の経験を紹介した連載企画も登場します。

さらに本誌は、北の大地に生きる野鳥や美しい花々など動植物の営みにも目をむけています。今泉潤の「動物たちのささやき」では、キタキツネの誕生からひとり立ちまで美しい写真によって紹介され、懸命に生きる幼い姿が感動を呼ぶシリーズでした。

旅の車中で、このような記事を読むと、忙しい生活の中で忘れかけていた生きる喜びに気づかされたり、動植物への愛情がめばえたりして、旅のひとつときに安らぎを与えてくれます。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵	「THE JR Hokkaido」 掲載年月号
M048	小檜山博	読切小説 新・人生劇場「児童」原稿	2006年	作家蔵	2007年1月号
M049	小檜山博	読切小説 新・人生劇場「一円の借り」原稿	2007年	作家蔵	2007年10月号
M050	小檜山博	人生讃歌「熱い背中」原稿	2008年	作家蔵	2008年11月号
M051	小檜山博	人生讃歌「自炊」原稿	2009年	作家蔵	2009年7月号
M054	中江潤一	読切小説 新・人生劇場「児童」イラスト	2006年	作家蔵	2007年1月号
M056	中江潤一	読切小説 新・人生劇場「一円の借り」イラスト	2007年	作家蔵	2007年10月号
M057	中江潤一	人生讃歌「熱い背中」イラスト	2008年	作家蔵	2008年11月号
M060	中江潤一	人生讃歌「自炊」イラスト	2009年	作家蔵	2009年7月号
M064	今泉潤	キタキツネの四季「幸福」	2004年	作家蔵	2004年6月号
M065	今泉潤	キタキツネの四季「旅立ちの日」	2005年	作家蔵	2005年3月号

北の恵み - 豊饒の大地からの贈り物

広く大きな北海道には、その大きさの分だけバラエティに富んだ海の幸や山の幸、温泉、環境など、ここでしか得ることができないものがたくさんあります。多くの人が、そのような「恵み」に惹きつけられ、北海道へ旅の針路を向けてきました。

「THE JR Hokkaido」には、定番のものから地元の人にしか知られていないものまで、料理や温泉、マチの自慢の逸品など北の「恵み」があふれています。

渡邊俊博手がけるシリーズは、そのような「恵み」を、ほのぼのとしたイラストとエッセイで私たちに紹介しています。旅先の風物を盛り込んで俳句を詠むもの、駅前周辺からその地域の魅力を探るもの、おいしい麺類を求めて旅をするものなど、切り口はさまざまです。そして、そのような切り口が、北の大地の「恵み」の魅力を引き出し、人々を旅へと誘うのです。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵	「THE JR Hokkaido」 掲載年月号
M072	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記「苦小牧の巻 いざ探鳥は ほっきの街へ」イラスト4点	2007年	作家蔵	2007年5月号
M073	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記「栗山町の巻 チョウは日本酒が好き？」イラスト	2007年	作家蔵	2007年8月号
M074	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記「登別温泉の巻 青鬼赤鬼 うなる名湯」イラスト	2007年	作家蔵	2007年11月号
M075	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記「上川町の巻 極寒にて あったか日本一」イラスト	2009年	作家蔵	2008年3月号
M076	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記「美唄の巻 昔の炭鉱町で鳥よ鶏よ」イラスト5点	2009年	作家蔵	2008年6月号
M077	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記「栗沢の巻 スリ山の上で林檎をガブリッ」イラスト	2009年	作家蔵	2008年10月号
M083	渡邊俊博	ズウさんのつるつる旅日記シリーズ 小イラスト6点	2008年～ 2009年	作家蔵	2008年9月号ほか

北の追憶 - なつかしき北海道の原風景へ

見る者に思わずなつかしさを感じさせるフォトエッセイ、北海道ゆかりの人物伝、次世代への贈り物「北海道遺産」の紹介…。THE JR Hokkaidoは、北の大地へのノスタルジーや歴史へのロマンをかきたてるシリーズを多く掲載してきました。

ここではそのなかから、写真とエッセイで構成された藤泰人の「時の旅人」シリーズと飯塚達央の「忘れがたき駅前ふるさと」シリーズを紹介します。白黒写真によって連載された毎号の作品からは、その被写体が輝いていた時代を知る世代はもとより、たとえ知らない世代であっても、そこはかたない郷愁にかられます。また、そこに綴られた文章も古きよき日の北海道を回想するすぐれて印象的な散文となっています。「北海道のどこかに、こんな風景がまだあるのか…」。そのような想いが、旅への第一歩となるのです。

出品番号	作者	作品名	制作年	所蔵	「THE JR Hokkaido」 掲載年月号
M090	飯塚達央	忘れがたき駅前ふるさと「水谷商店(愛別町)」	2003年	作家蔵	2005年4月号
M091	飯塚達央	忘れがたき駅前ふるさと「長万部食堂(長万部町)」	2004年	作家蔵	2005年5月号
M092	飯塚達央	忘れがたき駅前ふるさと「小松屋商店(遠軽町)」	2005年	作家蔵	2005年12月号
M093	飯塚達央	忘れがたき駅前ふるさと「増毛湯(増毛町)」	2003年	作家蔵	2006年1月号
M094	飯塚達央	新・忘れがたき駅前ふるさと「増毛駅(増毛町)」	2006年	作家蔵	2006年4月号
M095	飯塚達央	新・忘れがたき駅前ふるさと「由仁駅(由仁町)」	2006年	作家蔵	2006年5月号
M096	飯塚達央	新・忘れがたき駅前ふるさと「藤山駅(留萌市)」	2005年	作家蔵	2007年3月号
M097	飯塚達央	新・忘れがたき駅前ふるさと「土別駅(土別市)」	2007年	作家蔵	2007年12月号
M100	藤泰人	時の旅人「北国の下町」	2008年	作家蔵	2008年11月号
M101	藤泰人	時の旅人「父と馬」	2009年	作家蔵	2009年3月号
M102	藤泰人	時の旅人「草鞋」	2008年	作家蔵	2009年10月号
M103	藤泰人	時の旅人「風囲いの家」	2008年	作家蔵	2009年11月号
M104	藤泰人	時の旅人「行き倒れ」	2009年	作家蔵	2009年12月号



藤倉英幸

1948(昭和23)年、岩内町生まれ。74(昭和49)年に独立後、ポスター、カレンダー、パッケージなどのデザインを幅広く手がけ、「ポスターデザインコンペ北海道 91」最優秀賞作品のイラストを担当して注目を集めた。80年代後半から貼り絵によって風景画を制作、その作品はJR北海道車内誌「THE JR Hokkaido」の表紙を飾り、連載は今日まで200回に及ぶ。著書に『藤倉英幸のイラストレーションたち 山の村海の村』(86年)、『北を旅する人へ』(93年)、『四季彩紀行HOKKAIDO』(97年)、『はり絵で描く風景たち』(2004年)ほかがある。